

平成23年度事業報告書

〔 平成23年4月1日から
平成24年3月31日まで 〕

公益財団法人 神奈川県下水道公社

平成 23 年度 事業報告書

1 概要

当社は、下水道公社定款に基づき、流域下水道及び流域関連公共下水道の維持管理に関する業務のほか、下水道知識の普及・啓発活動及び下水道技術に関する調査研究を行い、県及び市町の下水道事業に協力し、もって県民の健康で快適な生活環境の向上と公共用水域の水質保全に寄与し、公衆衛生の向上及び環境保全を目的として事業を行いました。

事業の実施にあたっては、「公益財団法人神奈川県下水道公社経営改善計画」に基づき、効率的な運営に努めると共に、より一層の経費の削減に取り組みました。

2 受託事業

神奈川県が設置する流域下水道の処理施設の運転操作等維持管理業務及び流域関連公共下水道の水質分析等技術的業務を受託し、創意と工夫をもって主体的に業務に取り組み、県民の健康で快適な生活環境の向上と公共用水域の水質保全に寄与するため、次の事業を行いました。

(1) 流域下水道の下水処理等維持管理事業

神奈川県から相模川及び酒匂川流域下水道の下水処理等維持管理業務を受託し、流域関連市町からの流入下水を適正に処理し、下水処理場施設、幹線管渠及び関連するポンプ場など、処理場施設の維持管理を行うほか、県民に下水道の役割などを理解していただくための広報活動などを行いました。

ア 主な維持管理施設等の概要

平成 23 年度に県から受託した主な下水道維持管理施設等は、次表のとおりです。

処 理 場 施設・設備	相模川流域下水道		酒匂川流域下水道	
	四之宮	柳 島	酒 匂	扇 町
敷地面積 (ha)	26.9	19.6	9.8	7.0
水処理施設 (系列数) (m3)	6 系列	9 系列	2 系列	2 系列
施設能力 (日最大) (日平均流入量)	418,200 (249,300)	612,000 (411,980)	84,000 (49,300)	68,000 (44,020)

汚泥脱水設備	ベルト 6 台 遠心 2 台	ベルト 1 台 遠心 3 台 ロータリー1 台 スクリュウ1 台	スクリュウ 4 台	ベルト 2 台
汚泥焼却設備 (日最大能力 計)	3 基 (280 t/日)	6 基 (770 t/日)	3 基 (105 t/日)	2 基 (60 t/日)
管渠 (流域幹線)	37,960m	89,470 m	26,920 m	19,340 m
ポンプ場	2 箇所	6 箇所	1 箇所	—
上部利用施設	ふれあい広場 5.25 ha	しおさい広場 7.0 ha	きらり広場 1.3 ha	しらさぎ広場 1.2 ha

(注 1) 汚泥脱水設備の「ベルト」はベルトプレス、「スクリュウ」はスクリュウプレス、「ロータリー」はロータリープレス

(注 2) 上記維持管理施設には、平成 23 年度中に新規供用開始又は休止した設備を含む。

イ 下水処理

(ア) 流入下水道量

平成 23 年度の相模川及び酒匂川流域下水道の流入下水道量は、次表のとおりです。

流域	下水処理場 (管理センター)	流入下水道量 (m ³)		前年対比 (%) (A)/(B)
		H.23 実績 (A)	H.22 実績 (B)	
相模川	四之宮	91,243,730 (249,300)	95,726,560 (262,260)	△4,482,830 (95.3%)
	柳 島	150,786,130 (411,980)	147,934,190 (405,300)	2,851,940 (101.9%)
	相模川計	242,029,860 (661,280)	243,660,750 (667,560)	△1,630,890 (99.3%)
酒匂川	酒 匂	18,043,530 (49,300)	17,685,940 (48,450)	357,590 (102.0%)
	扇 町	16,112,450 (44,020)	15,644,400 (42,860)	468,050 (103.0%)
	酒匂川計	34,155,980 (93,320)	33,330,340 (91,310)	825,640 (102.5%)
合 計		276,185,840 (754,600)	276,991,090 (758,870)	△805,250 (99.7%)

(注) 流入下水道量は年間の数量で、() 内の数字は日平均水量を示す。

(イ) 流入水及び放流水の水質測定結果

流入下水を処理するにあたっては、標準活性汚泥法により適切に処理し、全て法で定める排水基準値以内で処理することができました。

① 相模川流域下水道水質測定結果

処理場 主な項目		四之宮		柳島		水質汚濁防止法 排水基準 (許容限度)
		流入水	放流水	流入水	放流水	
BOD (mg/L)	平均	170	5.3	170	3.1	四之宮 20 (25) 柳島 (25)
	最大	280	15	220	6.2	
	最小	120	1.1	140	1.0	
COD (mg/L)	平均	89	9.4	100	8.6	四之宮 (25) 柳島 20 (25)
	最大	140	13	120	10	
	最小	52	5.4	64	5.2	
S S (mg/L)	平均	175	3.1	209	2.3	50 (70)
	最大	278	7.0	314	3.8	
	最小	122	1.0 未満	166	1.0	
P H	平均	7.4	6.7	7.5	6.6	5.8~8.6
	最大	7.7	6.9	7.7	6.8	
	最小	7.0	6.4	7.1	6.4	
大腸菌群数 (個/c m ³)	平均	71 万	180	20 万	92	(3,000)
	最大	330 万	1,400	82 万	860	
	最小	11 万	2	3.1 万	14	

(注) 1 BOD は生物化学的酸素要求量、COD は、化学的酸素要求量、SS は、浮遊物質量、PH は、水素イオン濃度。

2 流入水及び放流水の数値は、年平均値を示す。

3 排水基準は、水質汚濁防止法及び神奈川県生活環境の保全等に関する条例の基準値で、() は、最大値を示す。

② 酒匂川流域下水道水質測定結果

主な項目		酒匂		扇町		水質汚濁防止法 排水基準 (許容限度)
		流入水	放流水	流入水	放流水	
BOD (mg/L)	平均	150	5.0	110	4.6	20 (25)
	最大	210	12	160	7.2	
	最小	100	1.8	87	2.6	
COD (mg/L)	平均	88	10	89	12	(25)
	最大	120	14	110	16	
	最小	52	7.6	56	9.0	
S S (mg/L)	平均	165	2.4	165	4.4	50 (70)
	最大	304	4.6	250	9.2	
	最小	120	1.0 未満	134	2.6	
P H	平均	7.4	7.1	7.4	7.0	5.8~8.6
	最大	7.8	7.2	7.7	7.3	
	最小	7.0	6.7	7.0	6.6	
大腸菌群数 (個/c m ³)	平均	19 万	10	59 万	470	(3,000)
	最大	64 万	97	440 万	1,200	
	最小	3.2 万	1 未満	2.1 万	85	

(注) 相模川流域下水道の注記に同じ

ウ 汚泥処理

(ア) 汚泥発生量

発生した汚泥は、全量焼却処理しました。

流域	下水処理場 (管理センター)	汚泥発生量 (t/年)		前年対比 (%) (A)/(B)
		H.23 実績 (A)	H.22 実績 (B)	
相模川	四之宮	54,878	53,641	1,237 (102.3%)
	柳 島	117,467	111,935	5,532 (104.9%)
	相模川計	172,345	165,576	6,769 (104.1%)
酒匂川	酒 匂	18,604	19,612	△1,008 (94.9%)
	扇 町	9,370	9,511	△141 (98.5%)
	酒匂川計	27,974	29,123	△1,149 (96.1%)
合 計		200,319	194,699	5,620 (102.9%)

(イ) 焼却灰処分量

焼却処理により発生した焼却灰は、発生量の4割程度を搬出しました。

流域	下水処理場 (管理センター)	焼却灰処分量 (t/年)		前年対比 (%) (A)/(B)
		H.23 実績 (A)	H.22 実績 (B)	
相模川	四之宮	378	1,669	△1,291 (22.6%)
	柳 島	1,396	3,032	△1,636 (46.0%)
	相模川計	1,774	4,701	△2,927 (37.7%)
酒匂川	酒 匂	207	522	△315 (39.7%)
	扇 町	167	228	△61 (73.2%)
	酒匂川計	374	750	△376 (49.9%)
合 計		2,148 (①2,081 ②67)	5,451 (①4,166 ②1,285)	△3,303 (39.4%)

(注) 合計欄の()は合計数量の内訳で、①は乾灰、②は加湿灰

エ 放射能対策

放射性物質濃度の状況により、処分することができなかつた焼却灰等は、加湿灰にして処理場内に保管しました。

また、放流水や焼却灰等の放射能濃度や処理場敷地境界線での放射線量の測定を実施し、状況の把握に努めるとともに適正な管理を行いました。

オ 機器設備の点検・補修

処理場に設置されている機器設備は、公社精密点検・設備補修基準に基づき点検・補修工事を行い、効率的で緻密な管理を行いました。

カ 環境対策

下水道の役割を果たすため、良好な放流水質の確保、汚泥焼却による減量化と灰の資源化、処理場周辺の臭気調査など環境保護に努めると共に下水処理業務に従事する従業員の作業環境の向上に努めました。

(ア) 環境保護

① 良好な放流水質の確保

より良好な放流水質を確保し、公共用水域の水質保全に努めました。

また、人体に影響を及ぼすクリプトスポリジウムについて調査しました。

調査の結果、流入水、放流水、共に含まれていないことが確認されました。

② 汚泥焼却による減量化

下水汚泥は全量焼却して汚泥量の減量化に努めました。

③ 処理場周辺臭気調査

処理場周辺住民の生活環境を維持するため、処理場敷地境界線における臭気調査を実施し、発生する臭気の監視強化に努めました。

<敷地境界等臭気調査結果>

処 理 場 (調査地点数)	臭気指数 (最小～最大)	悪臭防止法 規制基準値
四之宮管理センター (7地点)	10未満 (10未満)	15
柳島管理センター (4地点)	10未満 (10未満～14)	15
酒匂管理センター (4地点)	10未満 (10未満)	15
扇町管理センター (4地点)	10未満 (10未満)	15

(注) 臭気指数は、年平均値

(イ) 作業環境の向上

① 水質実験室作業環境測定

水質分析時に有機溶剤を取り扱うことから実験室内の作業環境について測定しました。

測定の結果は全て「適切」であり、良好な作業環境が維持されていました。

② 焼却施設作業環境測定

焼却炉点検作業や焼却灰の搬出作業を行う者がダイオキシン類にばく露することを防止するため、ダイオキシン類に係る作業環境について測定しました。

測定結果については公社の「ダイオキシン類対策委員会」で検討し、適正な保護具を選定するなどの対応策を講じました。

キ 広報

① 施設見学の案内

処理場に訪れた施設見学者に対し、公社が作成したパワーポイントを活用して神奈川県内の流域下水道の現況や下水道の役割などを説明し、また、処理場施設を見ていただくなど、下水道に関する普及啓発に努めました。

見学者数は、柳島管理センター以外は前年度に比べ減少しました。今後も公社ホームページや広報紙等に施設見学の案内を掲載し、より多くの県民に見学していただけるように努めます。

<処理場施設見学者の内訳>

(人)

管理センター	行政 機関	学生		一般 県民	団体	計
		小学生	その他			
四之宮	61 (122)	124 (529)	22 (131)	79 (178)	222 (50)	508 (1,010)
柳 島	12 (45)	965 (715)	505 (245)	239 (181)	0 (25)	1,721 (1,211)
酒 匂	3 (59)	146 (339)	4 (22)	25 (62)	16 (30)	194 (512)
扇 町	74 (106)	152 (206)	4 (4)	3 (1)	5 (7)	238 (324)
合 計	150 (332)	1,387 (1,789)	535 (402)	346 (422)	243 (112)	2,661 (3,057)

(注) () は、前年度の見学者数

② 「下水道ふれあいまつり」の開催

処理場内の上部利用施設を活用して、地元住民の演奏・踊り、子供が遊べるゲーム、下水道学習室や処理場施設見学などを行い、県民の下水道に関する理解と関心を深め、下水道に関する知識の普及啓発を図りました。

平成 23 年度は開催日を 9 月から気候が良い 10 月に変更して開催しました

が、当日の大雨のため、前年度に比べ来場者が減少しました。これからも催し物を工夫するとともに県・市町と連携してふれあいまつり開催の広報を強化し、来場者の増に努めます。

<下水道ふれあいまつり開催結果>

開催年月日	平成 23 年 10 月 22 日 (土)		来場者計
開催場所	相模川流域 四之宮管理センター (四之宮ふれあい広場)	酒匂川流域 扇町管理センター (扇町しらさぎ広場)	
来場者数	455 人 (柳島:1,009 人)	507 人 (扇町:1,201 人)	962 人 (2,210 人)

(注) 来場者数の () は、前年度の実績

③ パンフレット等の作成・配布

県民の下水道に関する理解を深めるため、下水道のしくみや情報を分かりやすくまとめた広報紙や各種パンフレットを作成、配付しました。

広報紙等の名称	作成部数	主な配布先
下水道だより 「きらめき」	30,000	県、流域関連市町及び小学校
進め！下水道探検隊	13,000	県、流域関連市町及び小学校
かながわの流域下水道	10,000	県及び流域関連市町
維持管理年報	185	県及び流域関連市町

④ ホームページ

ホームページを活用し、処理場の維持管理に関する様々な情報について情報提供しました。

<主なメニューの内容>

- ・入札情報 (入札予定、公告、事前公募、入札要領、積算資料、様式 等)
- ・下水道の維持管理状況 (処理場運転管理、下水道管の維持管理、水質 等)
- ・イベント (下水道ふれあいまつり、下水道作品コンクール、出張教室 等)
- ・下水道のしくみ (下水道のしくみ、用語の説明、下水道 Q&A 等)
- ・公社情報 (公社の情報提供資料)

ク 水質規制

① 水質規制担当者特別研修会の開催

流域関連市町が行う事業場の監視・指導に関する知識・技術の向上等を目的として、事業場排水の水質規制を担当している職員を対象として研修会を開催しま

した。

<水質規制担当者特別研修会>

開催日	平成24年2月29日(水)
開催場所	四之宮管理センター
対象者	県及び流域関連市町の水質規制担当職員
受講者数	21名
内容	① 水質検査の基礎知識 ② 事業場の立入検査と自主管理について ③ ディスカッション(事業場の自主管理状況の確認及び立入検査の実施状況について等)

② パンフレットの作成・配布

公共下水道を使用する事業者向けに、水質基準や届出等をわかりやすく説明したパンフレットを作成し、流域関連市町に配布しました。

パンフレットの名称	作成部数	主な配布先
公共下水道を使用する工場・事業場の皆様へ	2,000	流域関連市町

ケ 上部利用施設利用状況

各処理場の水処理施設上部に設置されている上部利用施設の利用状況は次のとおりでした。

施設名	処理場	利用者数(人)	備考
ふれあい広場	四之宮管理センター	51,179 (52,253)	多目的広場、テニスコート(6面)、フットサルコート(1面)ほか
しおさい広場	柳島管理センター	69,447 (64,688)	多目的広場、テニスコート(4面)、少年サッカーコート(1面)、遊水池ほか
きらり広場	酒匂管理センター	17,566 (22,637)	多目的広場、遊び広場、噴水ほか
しらさぎ広場	扇町管理センター	24,922 (32,019)	芝生広場、ちびっこ広場、遊具広場、軽運動広場、噴水池ほか
計		163,114 (171,597)	

(注) () は、前年度の利用者数

(2) 下水道の水質分析等受託事業

相模川及び酒匂川流域に関連する市町から特定事業場の下水の水質分析を受託し、特定事業場の排水の採水及び水質分析を行いました。

<特定事業場等水質調査業務受託概要>

区分 流域	受託市町数			調査箇所数			水質分析数		
	実績 A	前年 B	差異 A・B	実績 A	前年 B	差異 A・B	実績 A	前年 B	差異 A・B
相模川流域 関連市町	9	9	0	152	149	3	10,912	11,262	△350
酒匂川流域 関連市町	6	5	1	42	39	3	3,840	4,189	△349
計	15	14	1	194	188	6	14,752	15,451	△699

3 自主事業

当社は、広く県民に下水道の役割や下水道の仕組み等下水道に関する知識の向上を図り、また、下水処理施設の維持管理における技術的な調査研究を行い、下水道維持管理コストの削減や県が行う下水道施設の建設・改築更新への助言・提言を行うなど、下水道事業の推進に協力し、県民の健康で快適な生活環境の向上と公共用水域の水質保全に寄与するため、次の事業を行いました。

(1) 下水道知識普及啓発事業

広く県民に、下水道の役割や下水道の仕組みなど、下水道に関する知識の普及啓発を目的として、次の事業を行いました。

ア 「下水道ふれあいまつり」の開催 (P. 7 キ広報の②再掲)

処理場内の上部利用施設を活用して、地元住民の演奏・踊り、子供が遊べるゲーム、下水道学習室や処理場施設見学などを行い、県民の下水道に関する理解と関心を深め、下水道に関する知識の普及啓発を図りました。

平成23年度は開催日を9月から気候が良い10月に変更して開催しましたが、当日の大雨のため、前年度に比べ来場者が減少しました。これからも催し物を工夫するとともに県・市町と連携してふれあいまつり開催の広報を強化し、来場者の増に努めます。

<下水道ふれあいまつり開催結果>

開催年月日	平成 23 年 10 月 22 日 (土)		来場者計
開催場所	相模川流域 四之宮管理センター (四之宮ふれあい広場)	酒匂川流域 扇町管理センター (扇町しらさぎ広場)	
来場者数	455 人 (柳島:1,009 人)	507 人 (扇町:1,201 人)	962 人 (2,210 人)

(注) 来場者数の () は、前年度の実績

イ 下水道作品コンクールの実施

将来を担う子供達に下水道に対する関心を深めることを目的として、流域関連 21 市町の小学校 4 年生を対象として、作文、ポスター、書道の作品を募集するコンクールを実施しました。

応募作品は、第三者機関による公正な審査を経て優秀作品を選出し、入賞者には表彰式を開催(平成 23 年 12 月 17 日(土)小田原市生涯学習センターけやき)して表彰しました。

平成 23 年度の作品応募数は前年度に比べ減少しましたが、今後、作品を募集する際に、コンクールの主旨、目的のほか、過去の優秀作品や表彰式の写真などを添えて各市町の小学校へPRし、より多くの作品を応募していただけるよう努めます。

<作品応募・入賞数>

区分	作文	ポスター	書道	計	備考
応募数	118 (156)	1,040 (1,266)	2,651 (3,209)	3,809 (4,631)	参加学校数: 183 (199) 参加市町数: 21 (21)
入賞数	10 (10)	20 (20)	40 (40)	70 (70)	

(注) () は、前年度の実績数

ウ 下水道担当職員研修会の実施

県及び市町村の下水道事業を所管する担当職員を対象に、下水道に関する幅広い知識の修得を目的として、次の研修会を実施しました。

研修会名	開催年月日 (開催場所)	対象者 (受講者数)	研修概要
一般 コース	平成 23 年 8 月 11 日 (四之宮管理センター)	下水道に関する 基本的な知識を 希望する職員 (61 人)	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道法と関係法規 ・下水処理場のしくみと水質管理 ・処理場施設見学 ・調査研究発表
専門技術 コース	平成 23 年 11 月 11 日 (東京都江東区： 有明水再生センター)	下水道に関する 専門的な知識を 希望する職員 (38 人)	<ul style="list-style-type: none"> ・浦安市の下水道施設における液状化の被害状況と復旧措置 ・有明水再生センターの水処理(高度処理)の取組み、下水道PRの取組み(施設見学)
管理者 コース	平成 24 年 1 月 31 日 (四之宮管理センター)	下水道を所管する 管理職員 (42 人)	<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省の災害対応 ～東日本大震災の対応を中心として～ ・地震津波について

エ 下水道教室の実施

① 下水道出張教室

公社職員が流域関連市町の小学校へ出向き、小学 4 年生の授業の中で、下水道の果たす役割や下水道の仕組みなどを説明すると共に、子供達が顕微鏡で汚れた水をきれいにする微生物を見たり、水の汚れ具合を簡単に見分ける簡易的な水質実験を行うなど、「下水道出張教室」を実施しました。

○ 実施学校数：18 校（前年度：17 校）

② 親子下水道教室

流域関連市町に在住する方を対象として、親子で下水処理場へ来ていただき、公社職員が下水道の果たす役割や下水道の仕組みなどを説明すると共に、顕微鏡で汚れた水をきれいにする微生物を見たり、水の汚れ具合を簡単に見分ける簡易的な水質実験を行い、実際に下水処理場施設を見学していただく「親子下水道教室」を実施しました。

<親子下水道教室実施結果>

開催場所	実施日	参加募集対象者	参加者数
相模川流域 柳 島	平成 23 年 7 月 2 日	相模川流域 小学校 4 年生と保護者	47 人 (前年：四之宮 58 人)
酒匂川流域 酒 匂	平成 23 年 7 月 9 日	酒匂川流域 小学校 4 年生と保護者	45 人 (前年：酒匂 39 人)

オ 市町主催の環境イベントへの参加

流域関連市町が主催する環境等に関するイベントに公社が参画し、来場者に下水道の果たす役割や下水道の仕組みなどを説明すると共に、顕微鏡で汚れた水をきれいにする微生物を見ていただき、環境に対して下水道が果たす役割などについてPRしました。

<市町環境イベント参加結果>

主催	イベント名	開催日	イベント来場者数
伊勢原市	いせはら環境展	平成23年5月14日 ～ 15日	約2,300人
南足柄市	環境フェア	平成23年6月25日	約1,000人
厚木市	あつぎ環境フェア	平成23年10月30日	約10,000人
茅ヶ崎市	ちがさき環境フェア	平成23年11月3日	約1,500人
愛川町	ごみの工夫と生活展	平成23年11月13日	約4,000人
			計約18,800人
前年度は、4市1町で実施			

(注) イベント来場者数は、主催者発表の人数(100名以下は端数処理)

(2) 汚水・汚泥処理技術調査研究事業

下水処理場施設の維持管理を行う上で発生する様々な技術的課題事例を捉え、当公社職員がこれまで蓄積してきた豊富な経験や専門的な知識に基づき、下水道維持管理コストを削減するノウハウや施設の改善策などに資するテーマについて調査研究を行いました。

調査研究の研究成果については、調査研究報告書を作成して結果をまとめ、研究成果を公表するとともに、様々な研究発表会で発表しました。

ア 調査研究実施概要

平成23年度に行った調査研究のうち、次の4項目について研究報告をまとめました。

- ① 反応タンクにおける散気設備の更新周期等の検討
- ② 柳島管理センターにおける汚泥処理施設の検証
- ③ 放射性物質を含む焼却灰の保管に関する基礎調査
- ④ 下水処理場における電力削減について

<調査研究結果の概要>

① 反応タンクにおける散気設備の更新周期等の検討

実施所属	調査等の概要	効果等
各管理センター	反応タンク散気設備の更新周期は概ね8年程度となっているが、目詰まりによる効率の低下は電力量にも関係してくることから、各管理センターの実情に合わせた最適な更新周期を見定めていく。	各センター毎に周期を定めることにより、電気料金を含めた総合的なコスト削減を図っていく。

② 柳島管理センターにおける汚泥処理施設の検証

実施所属	調査等の概要	効果等
柳島管理センター	柳島管理センターの汚泥処理施設は、左岸独特の汚泥性状から、計画値に比べ汚泥処理能力が上がり、将来発生した汚泥を全量処理できない可能性がある。今回、維持管理の実態を検証し県の計画に提言した。	検証の結果、発生する汚泥濃度が計画値より低く、濃縮、脱水施設に影響を与えているため、脱水機の1台追加を県に提案し施設計画に反映させていく。

③ 放射性物質を含む焼却灰の保管に関する基礎調査

実施所属	調査等の概要	効果等
四之宮管理センター	放射性物質を含む焼却灰の保管に関して、次の基礎調査を行った。 ア 保管場所周辺の空間線量、イ 覆土などによる遮へい効果、ウ 酸やアルカリ水による放射性物質の溶出挙動	いずれの結果も放射性物質を保管する上で、周辺環境等への放射線等の影響は無いものと考えられる。

④ 下水処理場における電力削減について

実施所属	調査等の概要	効果等
業務課 各管理センター	東日本大震災の影響による電力使用制限の発令から実施した節電対策について、反応タンク送風量の削減、換気設備の運転時間調整及び水処理使用池の削減等の実効性の検証を行い次年度の節電対策に活用する。	ピーク時の最大電力で7月～9月前年対比約25%、年間使用電力量で4処理場前年度対比3.7%削減された。

イ 研究発表

(ア) 研究発表

平成 23 年度に行った調査研究発表は、次のとおりでした。

<発表会：第 48 回下水道研究発表会>

主 催	実施日	開催場所	発表テーマ
(社) 日本 下水道協会	平成 23 年 7 月 27 日	東京ビッグサイト (東京都江東区)	水処理施設の処理状況と改築更新 時の技術提案

<発表会：第 14 回県土整備技術発表会>

主 催	実施日	開催場所	発表テーマ
神奈川県 県土整備局	平成 24 年 1 月 12 日	横浜市開港記念会館 (横浜市中区)	戸田ポンプ場の送水時における 人孔内の硫化水素濃度の挙動

(イ) 研究報告書の作成・配布

研究成果については調査研究報告書を作成し、関係機関に配布すると共に
公社内情報提供コーナーに備え置き、一般県民に情報提供しています。

<調査研究報告書>

名 称	作成部数	主 な 配 布 先
調査研究報告書	200	県、流域関連市町

<管理部門>

1 職員の状況

(平成 24 年 3 月 31 日現在)

組 織	長の氏名	構 成 職 員 数					
		事務	土木	機械	電気	化学	計
総 務 部 長	—						
業 務 部 長	—						
総 務 課 長	鈴木邦雄	5	1			1	7
企 画 課 長	野村弘明	4				1	5
業務部次長兼業務課長	永瀬文雄		3	1	2	1	7
水 質 課 長	田代秀行					7	7
業務部次長兼四之宮管理センター所長	若山廣文			3	3	4	10
柳島管理センター所長	佐藤保夫			3	4	4	11
酒匂管理センター所長	海野 淳			2	1	3	6
扇町管理センター所長	今永英二		2	1	1	3	7
合 計		9	6	10	11	24	60

(注) 構成職員には非常勤職員を除く。

2 役員及び評議員の状況

ア 役員数

(平成 24 年 3 月 31 日現在)

役 職 名	常 勤	非常勤	計
理 事 長	1	—	1
常 務 理 事	2	—	2
理 事	—	6	6
監 事	—	2	2
計	3	8	11

イ 評議員数

(平成 24 年 3 月 31 日現在)

役 職 名	常 勤	非常勤	計
評 議 員	—	9	9

ウ 役員一覧表

(平成 24 年 3 月 31 日現在)

役 職 名	氏 名	常勤・非常勤の別	備 考
理 事 長	小 野 義 博	常 勤	
常 務 理 事	小 宮 久 雄	常 勤	
〃	山 崎 仁	常 勤	
理 事	久 保 田 三 義	非 常 勤	厚木市 まちづくり事業部 市街地活性化担当部長
〃	古 谷 俊 郎	〃	南足柄市 都市経済部長
〃	前 原 宜 明	〃	寒川町 都市建設部長
〃	小 澤 克 之 助	〃	中井町 上下水道課長
〃	大 木 満	〃	松田町 建設課長
〃	後 藤 徹	〃	愛川町 建設部長
監 事	鳥 海 治	〃	伊勢原市 土木部参事 (兼) 下水道業務課長
〃	猪 鼻 久 義	〃	公 認 会 計 士

エ 評 議 員 一 覧 表

(平成 24 年 3 月 31 日現在)

役 職 名	氏 名	常勤・非常勤の別	備 考
評 議 員	斉 藤 進	非 常 勤	産業能率大学 情報マネジメント学部教授
	石 川 智 康	〃	技術士（上下水道部門） 石川技術士設計事務所所長
〃	古 川 交 未	〃	相模原市 都市建設局 土木部長
	菅 谷 学	〃	平塚市 土木部長
〃	大 野 速 雄	〃	小田原市 副市長
〃	酒 井 利 和	〃	茅ヶ崎市 下水道河川部長
〃	久 保 満 里 子	〃	神奈川県 湘南地域県政総合 センター副所長(兼)総務部長
〃	萩 原 勝 治	〃	神奈川県 西湘地域県政総合 センター副所長(兼)総務部長
〃	横 溝 博 之	〃	神奈川県 県土整備局 河川下水道部 下水道課長

3 理事会開催状況

<第1回理事会>

日 時 : 平成 23 年 4 月 8 日 (金)
場 所 : 公益財団法人 神奈川県下水道公社 (平塚市)
出席者数 : 理事 7 人 監事 2 人
議 事 : (第 1 号議案) 公益財団法人神奈川県下水道公社の事務局長について
(第 2 号議案) 公益財団法人神奈川県下水道公社の基本財産について
(第 3 号議案) 評議員会の招集について
(第 4 号議案) 公益財団法人神奈川県下水道公社の役員に支給する報酬月額等について
報告事項 : ・ 常務理事の変更について

<第2回理事会>

日 時 : 平成 23 年 6 月 20 日 (月)
場 所 : 公益財団法人 神奈川県下水道公社 (平塚市)
出席者数 : 理事 5 人 監事 1 人
議 事 : (第 1 号議案) 平成 22 年度事業報告及び決算報告について
(第 2 号議案) 評議員会の招集について
報告事項 : ・ 第三期経営改善計画実績報告
・ 東日本大震災に関する報告

<第3回理事会>

日 時 : 平成 24 年 3 月 22 日 (木)
場 所 : 公益財団法人 神奈川県下水道公社 (平塚市)
出席者数 : 理事 8 人 監事 2 人
議 事 : (第 1 号議案) 平成 24 年度事業計画書
(第 2 号議案) 平成 24 年度収支予算書
報告事項 : ・ 専決事項の報告
① 平成 23 年度収支補正予算書について
② 公益財団法人神奈川県下水道公社職員給与規程の一部を改正する規程について
・ 東日本大震災に係る当公社の対応について

4 評議員会開催状況

<第1回評議員会>

日 時 : 平成 23 年 4 月 19 日 (火)
場 所 : 公益財団法人 神奈川県下水道公社 (平塚市)
出席者数 : 評議員 7 人 理事 3 人 監事 1 人
議 事 : (第 1 号議案) 公益財団法人神奈川県下水道公社評議員会運営規則
(第 2 号議案) 公益財団法人神奈川県下水道公社役員及び評議員の
報酬並びに費用に関する規程
(第 3 号議案) 常勤の理事及び監事に支給する報酬の総額

<第2回評議員会>

日 時 : 平成 23 年 6 月 28 日 (火)
場 所 : 公益財団法人 神奈川県下水道公社 (平塚市)
出席者数 : 評議員 8 人 理事 3 人
議 事 : (第 1 号議案) 平成 22 年度決算書類について
(第 2 号議案) 評議員、理事及び監事の選任について
報告事項 : ・平成 22 年度事業報告

5 情報公開

当公社は、四之宮管理センターに「情報提供コーナー」を設置し、以下に記載する各種公社情報について県民の自由閲覧に供しています。

<各種の公社情報 (主な提供資料) >

- ・定款
- ・役員及び評議員名簿
- ・役員及び職員名簿
- ・事業報告書
- ・事業計画及び収支予算書
- ・貸借対照表
- ・正味財産増減計算書
- ・財産目録
- ・収支計算書
- ・監査報告書
- ・役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程
- ・経営改善計画
- ・各種パンフレット類
- ・その他下水道に関する情報誌 等